

平成 30 年度 住民懇談会 まとめ（文化センター）



開催日：平成 30 年 12 月 15 日（土） 午前 10 時～正午

会 場：文化センター

出席者：【町】町長、企画政策部長、建設部長、建設部次長、建設部技監、広報情報課長、都市計画課長、広報情報課長補佐兼広報統計係長、都市計画課長補佐兼都市計画係長、都市計画係、事務局（広報統計係）

【講師】名城大学都市情報学部 海道清信教授

【参加者】33 名

（司会）

みなさん、おはようございます。住民懇談会を始めます。

住民懇談会を行う趣旨としまして、私たち行政は、住民の方の意見を聞きながら、仕事を行っていきたいと思っています。そんな思いから、5 年ほど前から毎年テーマを設けてみなさんからの幅広い意見を伺っています。今年のテーマは、「景観」です。初めてのテーマになるので、わくわくしています。この後、みなさんと一緒にお話をし、ご意見を伺いたいと思っています。合意形成とはいかなくても、こんな方向でやってみようといった話の第一歩になればと思います。

それでは、神谷町長よりご挨拶を申し上げます。

（町長）

おはようございます。

寒い中、お休みの日にも関わらず、ご出席いただきありがとうございます。住民懇談会については、毎年 1 回、各地区で行いたいと思っています。一昨年は、「地域福祉」をテーマに住民懇談会を開催しました。そのおかげもあってか、また、福祉課、社会福祉協議会、事業者、住民のみなさまの頑張りもあり、あちこちに「居場所」が立ち上がっています。

昨年は、「子育て」をテーマに各地区の保育園や児童館で行いました。若いお父さんやお母さんとお話しできるいい機会となりました。

今年のテーマである「景観」については、すでに「景観計画」「景観条例」を策定していましたので、住民懇談会のテーマとするのが遅くなってしまいましたが、今年度のテーマとさせていただきます。

「景観計画」の中で、4 つの重点区域候補地区が定められており、その特徴を生かしたルールづくりを行っていきたいと思っています。まず、「明徳寺川流域」。続いて、「屋敷のまちなみ」。緒川の伝統的なまちなみをどう大事にしていくか、その特徴をいかしていくか、考えていきたいと思っています。

森岡には、「ぶどう畑」がたくさんあります。森岡台に近い方、尾根筋から緒川

に向かって見てみると、斜面にぶどう畑が並んでいる景色は、東浦町に住んでいる人にとっては当たり前の景観かもしれませんが、外から来た人にとっては、ここは違うなという気持ちになるかもしれません。その特徴を伸ばしていきたいと思っています。

「生路の郷中」は、鉤（かぎ）の手がいっぱいあるような地形をしています。この特徴的な地形を含めて、伸ばしていければと思っています。

今回は、景観全体についての理解と共通認識をつくりたいと思っています。また、明德寺川流域と緒川の屋敷について、対話ができればと思っています。

今回、気を付けたいと思っているのは、説明会のようになったり、質疑応答のようになったりしないことです。実りある意見交換となるように、行政側からもみなさんに質問させていただきますし、みなさんも、積極的にお話していきましょう。よろしくお願いいたします。

(司会)

景観について詳しい方も、「景観って何」という方もいらっしゃるかと思いますので、まずは、海道先生より、東浦町の景観について専門的な見地からご説明いただきます。

海道先生は京都大学大学院をご卒業され、地域振興整備公団で勤務をされたのち、現在、名城大学都市情報学部都市情報学科教授として教鞭をとられています。

都市デザイン・都市再生等の都市計画を専門にしておられ、持続可能な都市形態、人口減少時代の都市や地域のあり方、住民参画のまちづくりなどについて調査研究に取り組んでおられます。

また、社会的活動としましては、東浦町の景観まちづくり委員会の委員長の他、美濃加茂市未来のまちづくり委員会会長、島田市都市計画マスタープラン等アドバイザー会議会長など、数多くの場でご活躍されております。

【海道先生による説明】

※説明については、「別添 テーマ資料」のとおり

(司会)

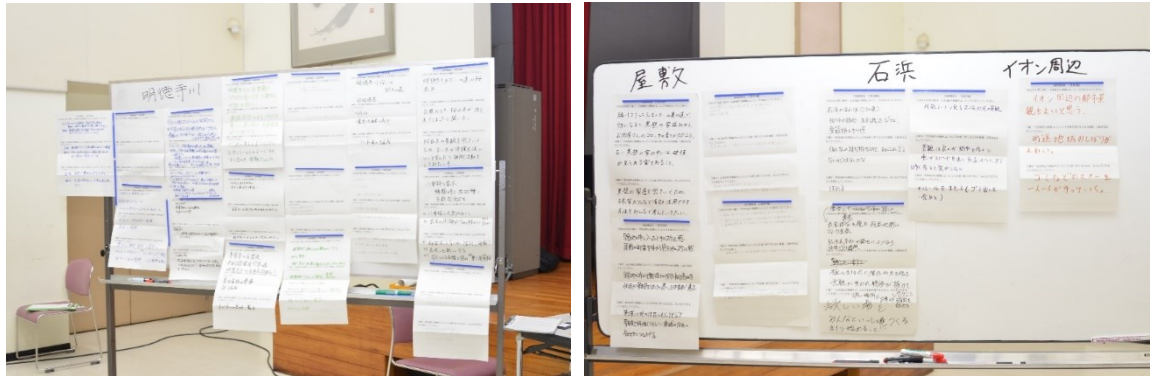
みなさんに、ご意見用紙を配付しています。①あなたの思う緒川・石浜地区の景観のよいところ②緒川・石浜地区の景観のよいところを創り育てるための課題、心配点③緒川・石浜地区の景観のよいところを創り育てるために、みんなでできることをそれぞれ記入してください。

【出されたご意見】

参加者の方々に、上記①～③について紙に書いて挙げていただきました。分かり

やすいよう大まかな分類をし、全てのご意見を紹介しました。

※みなさんのご意見については、「別添 ご意見用紙」のとおり



(司会)

みなさんご意見をいただきありがとうございました。

全体をとおして紹介させていただきましたが、町長はいかがでしょう。

(町長)

みなさん具体的にご意見を書いていただけたなという印象です。自分で書いた意見用紙は、恥ずかしながら当たり前の一般論しか記入できませんでした。

「ここから見たこれがいい」「こんな見方ができるのではないかな」など、いろいろな意見が出て面白かったです。みなさん生活している中で、感じていることがあるのだということを再認識しました。

(司会)

海道先生はいかがですか。どのような印象を受けられましたか。

(海道先生)

今までいろいろな調査を行ってきましたが、東浦町は、「明徳寺川」「根と狭間」が一番代表的な景観であり、大事にしていかなければならない景観だと思っています。



(司会)

屋敷についてのご意見も出ていましたがいかがでしょうか。

(海道先生)

アンケート調査の結果から、予想以上に黒板塀や黒壁など、住んでいる方にあま

り評価されていないのではないかと考えていました。

しかし、私たちのように外から来た人は、路地、黒板塀、黒壁は、他の町で見られない特徴的な風景であると思っています。今後とも、この特徴について、どのように評価していくべきか、考えていかないといけないと思っています。

先日、合同ゼミ（共同の研究会）を行いました。この黒板塀がいつごろできて、その由来は何なのかということを、調べたいと思っています。生路で犬の散歩をされていた地元の方に、「戦争で空襲を受けないために、壁を黒く塗ったというのが始まりです」という話を聞きました。また、役場の方から聞きましたが、藤江では、黒板塀に、古い船の材料を使っていたという話を聞きました。そのため、フナ虫を防ぐために、タールなどを塗っていたそうです。これは、常滑市ではよく行われています。

黒壁などを調べていくと、戦争や海との関係性などを含めて、そのまちの歴史につながります。景観というのは、“見た目”ではありますが、まちの歴史、地形、文化です。

「コロッケのにおいがする」という意見がいいなと思いましたが、全体を見渡せるのがまちの景観であって、暮らしぶりなども含めた総合的な表現が表れてきているということに、改めて気が付きました。

（司会）

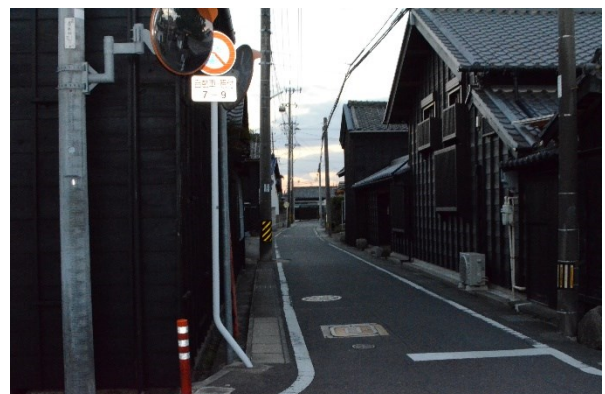
屋敷が重点区域候補地区に上がってきていますが、黒板塀などがどんどんなくなってきています。そのため、このままでもいいのかという危機感をみなさまお持ちかと思います。緒川区長いかがでしょうか。

（緒川区長）

一点目として、海道先生のご説明の中で、犯罪地域の話がありました。交通事故については、幹線道路沿いで発生するということが分かっています。また、屋敷内での声のかけあいがあることで、犯罪が少なくなるという話があります。屋敷内の今後のコミュニティのありかた、地域のありかた、景観のありかたを含めて考えていきたいと思います。

二点目として、現在は黒壁が減ってきています。多くの黒壁がなくなってきたので、古いものがなくなることを寂しく感じています。

現在は、黒トタンの家が増えてきていて、景観が変わってきているのかなと思います。



(司会)

みなさまの中で、ご意見を紹介していただける方はいらっしゃいますか。

(参加者)

私はふるさとガイドを行っています。

先ほどから話題になっている黒壁の板張りについて、ふるさとガイドを行っている知識から紹介させていただきます。

黒壁の板張りの中でも、象徴的なのは、緒川コミュニティセンターの裏の郷倉です。

このつくりは、簾子（ささらこ）下見板張りといいます。下見板張りについて説明しますと、板を重ねていき、板の下端がその下の板の上端に少し重なるように板を張ることです。これをずっと重ねていくと、板が浮いてしまいます。そこで、その浮きを抑えるために、縦に入っている棒材を削ったものが簾子（ささらこ）です。

ちなみに、能などで使われる、民族楽器があると思います。棒で楽器をこすると、かたかた音がする楽器です。それを簾子（ささらこ）といいます。

また、黒壁の材料については、潮の混じった風が奥まで入ってきてしまうので、コールタールを塗ったと聞いています。なお、昔の船の古材を塀に使っている証が今でもどこかで見られるはずです。そこでは、虫の食った板材を見ることができます。

(司会)

黒壁が減っているという話がありましたが、今後どんなことを行っていけばいいのでしょうか。

今、行っている取り組みはありますか。

(都市計画課長)

黒壁については、私たちも海道教授とともに屋敷のまちなみを歩かせていただいています。やはり、黒板塀が減ってきているという事実は認識しています。

現在、どういった黒壁を残していくべきかを調査させていただいており、今後、調査結果を基に考えていかないといけないと思っています。

黒板塀ではありませんが、地元の方に黒いフェンスを設置していただくなど、自発的に行っていただいているところもあります。このようなご協力をいただいています。

今後、黒壁をどのように保護していくかというところは、行政だけでなく、住民の方と一緒に行っていきたいと思っています。

(司会)

明徳寺川の意見は、一番多くいただきました。

桜並木について、ご記入いただいた方いらっしゃいますか。

① あなたの思う緒川・石浜地区の景観のよいところを記入してください。	②緒川・石浜地区の景観のよいところを創り育てるための課題、心配点を記入してください。	③緒川・石浜地区の景観のよいところを創り育てるために、みんなでできることを記入してください。
八重桜の並木 種類の多さ約 20 種と本数約 800 本	* 1 八重桜に元気がない * 2 並木の間隔が 5 m と短い (ベスト 8 m)	* 1 桜並木の手入れ (草刈り、肥料) * 2 名札を新しくする * 3 目玉となる品種を植える 例 兼六園菊桜

(参加者)

桜並木の維持については、明徳寺川沿いにはとても立派な八重桜の並木がありますが、ところどころ折れていたり、なくなっていたりするところがあります。

今までは、行政任せで、住民は見ているだけでよかったですが、今ではさまざまな取り組みがあります。

そのような中で、今日の住民懇談会の場合もそうですが、たくさん出た意見を集約し、各個人で何ができるのか考えることが必要だと思っています。

個人が植樹のできる仕組みづくり、桜並木を守っていく仕組みづくりなど、そういったルール作りを行政に作ってほしいと思っています。



(参加者)

於大まつりの前に、八重桜が咲いた後、菜の花のような黄色い花が護岸に咲いていて、桜とのコラボレーションが素敵でした。私は写真を撮るのが趣味なので、その景色がとてもいい写真になるのに、次の日、丁寧に刈り取られていました。むき

出しの土手があつて、ショックで立ちすくみました。清掃、すなわちきれいにするということが、景観を台無しにするという部分もあると感じました。

(町長)

私も同じように思いました。於大まつりの前、からし菜がきれいに咲いていました。

草刈りの際に、特定の花だけを残して雑草を刈ることは、とても難しいと思います。ですので、作業している方を責めることはできないと思いますが、少しくらい遊び心があつてもよかったかなとは思いますが。

同じように感じた方も中にはいるのではないのでしょうか。

(司会)

桜以外にもスイセンがきれいという意見がありました。私も知らなかったです。

① あなたの思う緒川・石浜地区の景観のよいところを記入してください。	②緒川・石浜地区の景観のよいところを創り育てるための課題、心配点を記入してください。	③緒川・石浜地区の景観のよいところを創り育てるために、みんなでできることを記入してください。
9月に植えた水仙が満開でした。 於大の道の桜以外の新名所ができました。 景観は、そのままではなく手を入れ住民がつくるものであると思います。	①のごとく、住民参加の創造する景観 その他、今までは景観を守る努力が必要 心配なこと) 放置しておくで無秩序に田園がこわされ、「ほっとする田園風景」がなくなります。 例) 坊主橋のコンビニ、株立する医院等統一が必要	①のごとく参加して、変化したことを体験すること ②田園風景によさがあるので、農家の高齢化で田園を守るのも危うい。田園を守るための努力が必要 ③統一した景観 ある程度規制が必要 コンビニの擁壁、フェンスのシルバー、委員の駐車場→風景にとけこむ工夫が必要

(参加者)

9月頃に、石浜と緒川のコミュニティでスイセンを植えました。今年は酷暑で、気温が40度くらいあり、汗だくで植えましたが、昨日見に行ったら満開でした。

コミュニティというくくりでなく、住民全体で景観に加われたら、さらによくなっていくと思っています。

また、明徳寺川の田園風景については、コミュニティも高齢化していますが、農家の方はもっと高齢化してしまっていて、大変と聞きます。田園風景の維持というのは並大抵なことではないです。

さらに、坊主橋付近のコンビニのコンクリートシルバーのフェンスは、風景から浮いています。コンビニの土地を買って植樹したらどうでしょうか。

また、病院が乱立していますが、田園にはみ出すように駐車場があります。明徳寺川の風景とあわないので、やはり土地を買い取って植樹してはどうでしょうか。

景観計画には、拘束力はないかもしれませんが、悪い景観を放置してしまうと、どんどん景観が崩れてしまうと思っています。



(参加者)

明徳寺川付近のコンビニのフェンスが建設されはじめたときに、高いフェンスが建つなと思っていました。できあがった時には、建物ぐらいまで高さがあると感じ、威圧感があるなと思っていました。私は他のコンビニの設計をしたことがあります。通常は透けているようなオープンなフェンスを使います。

建物の裏手のみ目隠しのために、透けないようなフェンスを設置するコンビニもあります。これは、建物の変なところを隠そうとする工夫のひとつです。しかし、明徳寺川近くのコンビニは、全部建物を取り囲むようにフェンスが設置されています。

駐車場では、光害があるので、法的に設置するよう定められているところもあります。プロの方に来ていただいて、どうしたら事業者も住民にもありがたいコンビニになるのかどうか協議していく必要があると思っています。

(参加者)

ちなみに、コンビニの壁におだいちゃんのイラストを描いてみようという意見もあるそうです。

(司会)

スターバックスや、セブンイレブンなどの建物の色を茶色くし、まちなみとあわせるために色合いを変えている店舗もあると思います。東浦町でも、イオンモール

東浦やカリモク、マンションなどの実例があると聞きました。これらについては、景観計画の中で色合いなどを考慮していただいたそうですね。

(都市計画課長)

イオンさんやカリモクさんについては、増築にあたり届け出がありましたので、景観アドバイザーを通じて、事務局はじめ町長とともにご協力をお願いし、議論を重ねてきました。そういった中で、景観計画に基づいて増築していただきました。

目には見えづらいですが、景観計画を運用していくにあたり、住民のみなさんにとって何が必要かということに対する説明責任がありますので、地元の代表的な企業に景観計画に即してご協力いただきました。

(海道先生)

いろいろな層が住んでいる東浦町ですから、いろいろな意見があると思います。黒塀がいいという人もいれば、利便性・効率性を優先すべきとする方もいますので、なかなか難しいと思います。

町長が前からおっしゃっていますが、東浦町はコンパクトなまちです。東浦町全域に対して管理を行うのではなく、ポイントを絞って、重点的に管理を行っていくことが必要であると思っています。まちづくりについては、全部を網羅するような方針ではなく、ポイントをつかんで行ってほしいと思います。

今回は、防災についての会ではないですが、災害についても、もし地震が起こって倒壊したときにどうなるかなど、考えながらすすめてほしいと思います。

(司会)

狭い道が落ち着くという意見もあれば、消防車が入れないという意見もあります。大きな火災がおきた時不安という意見もありますので、行政が一律に決めてしまうのではなく、住民のみなさまと話し合いながらバランスをとってまちづくりを行っていくべきかもしれません。

於大が丘についてのご意見もいただきました。

① あなたの思う緒川・石浜地区の景観のよいところを記入してください。	②緒川・石浜地区の景観のよいところを創り育てるための課題、心配点を記入してください。	③緒川・石浜地区の景観のよいところを創り育てるために、みんなでできることを記入してください。
於大が丘の高台から北西の方向に遠方まで見	地権者の理解を得ること	住民との協力。 努力を重ねて作り上げる。

られる眺望がいいです。		
-------------	--	--

(参加者)

私は於大が丘の近くに住んでいます。1月、2月頃に、北西の方向を見ていただきますと、雪の被った御嶽山を含め、全体を見渡すことができます。山の峰が見えますので、眺望をさえぎるものがなく、すばらしい景観です。

この景観は、長期にわたって維持ができる景観ですし、みなさんにも見ていただける景観ではないかと思っています。

(司会)

乾坤院についてのご意見もいただきました。

① あなたの思う緒川・石浜地区の景観のよいところを記入してください。	② 緒川・石浜地区の景観のよいところを創り育てるための課題、心配点を記入してください。	③ 緒川・石浜地区の景観のよいところを創り育てるために、みんなでできることを記入してください。
乾坤院を中心とした地形。 入海貝塚・天白遺跡と昔の海岸線のアピール	緒川城址や屋敷、入海神社、天白遺跡の保存をしようとしていなく、寂しい。	緒川駅前（JR）に緒川を中心とした歴史と観光マップを大きく展示して欲しい。

(参加者)

何が景観として一番いいか考えた時に、乾坤院を思い浮かべました。

初代住職が東浦町の景色を見まわしたときに、今乾坤院があるところが一番いい景観だと思ったから、この場所に乾坤院を建てたのだと思います。

(司会)

今日、景観についての結論が出るのは難しいと思いますが、みなさまが景観について考えるよい機会になればいいと思っています。最後にご意見のある方はいらっしゃいますか。

① あなたの思う緒川・石浜地区の景観のよいところを記入してください。	② 緒川・石浜地区の景観のよいところを創り育てるための課題、心配点を記入してください。	③ 緒川・石浜地区の景観のよいところを創り育てるために、みんなでできることを記入してください。
歴女とデートしやすい路地 武豊線が車窓から見た段丘地形に沿う屋並。 弘法道界わいの路地に寄り添う伝統的な建物。	景観を創る前に潜在的力を持った景観が失われ、特性が抜けてしまうこと。	欲しい場所に日常的機能をもたせる 欲しい場をみんなといっしょに創る。 創り始めること

(参加者)

石浜がうらやましいです。石浜に、「ふぁーまーずまるしえ 栞里」さんという、農家住宅を改装したカフェがあります。認知症になり始めた秋田出身の母をつれていくと、懐かしがります。昔の記憶を思い出すようです。

「栞里」さんは弘法道沿いにあります。

最近、思うことは、古いものを保存しようとする現代の機能を失ってしまうので、残



したいものの中に、住民のみなさんが必要とする現代の機能を入れてあげることが必要だと思っています。それには、住民のみなさんと相談しなくてはなりません。

緒川でも、乗林院の前の建物を取り壊され、その素敵な建物がよく見えるようになりました。この建物は、1724年、享保年間に建てられたものです。住職を口説いてカフェができないかなど考えています。現代に必要な機能を入れることができれば、「栞里」さんのようなカフェができるのになと思っています。

僕は意見用紙に「デートできるまちに」と記入しました。欲望のままに、「こういうことを、ここでやりたい」という思いを集約できればと思っています。

(司会)

海道先生のゼミ生の方から一言いただきます。

(海道先生ゼミ生)

私たちゼミ生から提案させていただきたいことがあります。緒川の空き家を利活用して、新しく地域の活性化を目指したいと思っています。

その方法としては、空き家を装飾し、小・中学生の遊びの場、憩いの場にし、み

なさんに使っていただけるものにしたいと思っています。

他にも空き家を活用した事例がありまして、近畿大学の学生の方が空き家を使ってカフェをしたり、群馬県では、地域住民の方と学生のコミュニティの場を設けたりしています。

しかし、不安な面もあります。学生の方や、地域住民のボランティアの方を確保できるのか、また、管理をしていけるのかという点です。みなさん、どういったように使いたいなど、ご意見がありましたらお伺いしたいです。

(参加者)

私は森岡に住んでおりまして、森岡で3年間空き家を拝借して、若いお母さんたちの居場所にしたいという経緯があります。しかし、もう閉館になってしまいました。空き家の持ち主により、取り壊すことになったからです。子育て世代のお母さん方は居場所をなくしてしまいました。

空き家にも必ず持ち主がいます。空き家に対する愛着もあるでしょうし、空き家の活用は、簡単なことではないと思います。ボランティアの方々と、床や壁を張り替えましたが、それらは、おばあちゃんのその前の代から、続いてきたものです。そういったことを考えてほしいです。

ご提案いただきありがとうございます。

①あなたの思う緒川・石浜地区の景観のよいところを記入してください。	②緒川・石浜地区の景観のよいところを創り育てるための課題、心配点を記入してください。	③緒川・石浜地区の景観のよいところを創り育てるために、みんなでできることを記入してください。
路地の中に入った時と きのスケール感 屋敷の町並みを外から 見た時のスケール感	路地のスケール感を維持しつつ防災性を高める。 住民が景観をほこりに 思い、引き継ぐ意思	東浦以外の住民も入ってもらって、景観を評価してもらい、東浦の住民の気付きにつなげる。

(参加者)

今、学生さんからいいご提案をいただきました。私も、同じく、森岡の空き家のワークショップに参加し、改修のお手伝いをさせていただきました。3年が経過して閉鎖してしまい、その難しさを痛感しました。

私は「スケール」をテーマに意見を記入させていただきました。「屋敷の路地の中から見た時のスケール感、外から見た時のスケール感」という意見です。

中から見た時の、歩く人に合ったヒューマンスケールは、気持のいいスケール感

です。また、外から見た時のコンパクトシティ的なスケール感も、まとまりのあるいいスケール感だと思います。

私も外から来た人間ですので、なかなか昔から住んでいる人にとっては気が付きにくいと思います。ですので、町外の方、広く言えば外国の方に、意見を伺うことで、外の人視点の住民の方への「気づき」になるのではないかと思います。

具体的なモデルがないと、具体的に何をすればいいのか分かりません。実際に何をすればいいのか分からない部分もたくさんあると思うので、モデルを一つ提示することで、そのモデルに向かって目指していくことができると思います。そこから広がっていくものもあると思います。

(町長)

ありがとうございました。大勢の方にお話を聞くことができず、少し残念に思っています。いろいろな意見を記入いただきましたが、景観でも防災でも利便性でも、二元論で話すことは簡単ですが、どちらを取るか、選択していくことは簡単ですが、話が極端な方向に進んでいってしまいます。



今まで「景観」の価値が見失われていた中で、まちづくりのなかに「景観」という要素が加わりました。東浦町の景観を創る上で、必要な資源の量は充足していますので、その中で質を上げていくことが必要です。どちらをとるかではなく、折り合いをつける。もしくは、知恵を出しあって両方を充足させるということをみんなで考えていくことが大切だと思っています。今後、そういったことをやっていきたいと思っています。また、景観には、個人の要素が入ってきてしまいますので、絶対的な正解がありません。そこは難しいところです。

先ほどモデルの提示という意見がでましたが、私たちは、今後目指していく景観への共通のイメージを持っていくべきだと思います。幅を持たせて合意を持つことができれば、価値が認められていくと思います。人間は、その価値が認められるような、居心地のいい場所に集まります。デートしたいとか、食欲も含めて、トータルで景観を創っていききたいです。

森岡の居場所も、裏を返せば3年も続きました。それは意味があることだと思います。いろいろな要素を入れながら、結果よいまちになるといいと思います。

話し足りない方もいるかもしれませんが、みなさんで共通認識を持つことができたことがいいことだと思うし、まちづくりにつながると思います。時間はかかると思いますが、確実に進めていきたいと思っています。

ありがとうございました。

(司会)

以上をもちまして住民懇談会を終了いたします。ご参加いただきありがとうございました。